

2009～10 年度共同研究「クイーンズランド州の 観光産業の発展に関する研究」について

森 島 覚

追手門学院大学

15 年の歴史を積み重ねたオーストラリア研究所の共同研究, そしてその 2009～10 年度については, 原点に戻り Door to Asia (Japan) の意味を持つ観光産業に, しかも日本からみてオーストラリアに最も近い, ゲートウェイ州であるクイーンズランドを調査することにした。

そこでの目的は, 21 世紀はじめにおける同州の観光産業の実態をまず把握すること, そして発展著しいアジア諸国との人的交流における将来性について展望することである。

というのも, 1980～90 年代前半はオーストラリアにとって経済のみならず日本人観光客招致ということでも日本との関係は黄金期であった。その証に, 当時政府所有の航空会社であったカンタスが四国を除く日本各州・道に直行路線を敷いたほどである。一日でいえば日の出期であった。ところが今日如何に国際航空業界の競争が激しいとはいえ, シドニーとパース (隔日) 路線が成田との間で運行されているのみである (代替えを Jetstar が僅かばかり行っているとはいえ) 將に, 日本との関係は日没に近いといえる。

そして, この四半世紀の時間が今度はオーストラリアにとって中国を始めとしたアジア諸国やインドとの交流に黄金期を作りだしたようである。

このような時, 冒頭述べた観光産業の時系列的比較それも東海岸にも位置し諸外国と最も近い州の一つであるクイーンズランドを調査することは, 日本とアジア諸国とのつながりも探れるということからも二重の意味を持つのではなかろうか。

今回の研究チームには以下の者が参加した (氏名の後のカッコは専攻科目)。

西川 喜朗 (生物学) (2009 年度のみ)

山中 雅夫 (経営学)

重松 伸司 (国際労働移動, 移民研究)

有吉 宏之 (オーストラリアの政治, 外交研究)

南出 眞助 (人文地理学)

橋本 圭司 (教育の経済学, 応用経済学) (2010 年度のみ)

森島 覚 (経済政策, 労使関係)

の各教授と, オーストラリア労使関係学会の権威である Braham Dabscheck (労使関係) Sen-

ior Fellow ; Faculty of Law, University of Melbourne である。

具体的なオーストラリア現地の調査は 2009 年 8 月から始めた。

ブリスベンにあるクイーンズランド州観光局でのブリーフィングに始まり、各メンバーが其々のテーマを持ってブリスベンを中心にさらにケアンズ、ゴールドコーストでの日系旅行業者からの資料収集も行った。

2009 年度中では 11 月に研究所員のメンバー間でオーストラリア研究所にて公開報告・討論を行った。2010 年 1 月に入って、再びオーストラリア研究所にて Braham Dabscheck 氏を招いて英語を主要言語とする、公開の集中報告・討論セミナーを持った。各テーマは以下のようであった。

「インド人によるオーストラリア観光の動向」(重松), 「オーストラリアのツーリズム産業－連邦とクイーンズランド－」(山中), 「ファームステイ・ツアーの実態」(西川), 「ゴールドコーストの日系旅行者の動向」(有吉), 「クイーンズランド州の観光客の動向」(南出), 「ブリスベン観光の交通アクセス」(森島)そして Braham Dabscheck 氏は本号での報告タイトルともなっている「Two Small Industrial Relations Cogs In The Queensland Tourism Industry」。

また、2010 年度に於いては集大成的報告をクイーンズランドで行うということで、2010 年 8 月 27 日にクイーンズランド大学にて新たに 2010 年度にメンバーに加わった(橋本)「Tourism Demand and Economic Growth in Australia : Some Econometric View」報告を始めに、次のようなテーマでもって行った。

「An Overview on Medical Tourism－Effect on Asian Societies－」(重松), 「The movement of Japanese tourists to Queensland State」(有吉), 「Japanese high school's Excursions to Australia」(南出), 「Dabscheck 氏の報告と交通アクセスの概要」(森島)。そしてさらに、ここまで紹介してこなかった The University of Queensland の Senior Lecturer で観光産業のエキスパートであり Korea との繋がりが深い Timothy Lee 氏に「The role of hotel decoration in strengthening regional destination image」という報告をして頂いた。またこの場を借りて、同氏に今回の共同研究の最終報告会場の設定や 2 年間にわたる調査の手助けをして頂いたことにも併せて感謝する、ことを述べておきたい。

以上の調査・研究の成果が掲載した今号での各報告である。

次に蛇足となるが、森島は 2009 年において本号での発表となった Braham Dabscheck 氏の論文につながる報告ともいえる「Report on the Joint Research 2009 by the Centre for Australian Studies, Otemon Gakuin University : Development of Tourism in Queensland」として、35 号にて主に交通アクセスの問題点を紹介した。また、ゴールドコーストとブリスベンのアクセスの説明で(『オーストラリア研究紀要』第 35 号の 135 頁本文 9 行目)－a return ticket cost respectively A\$45 and A\$85 と表現した個所については Door to Station つまり自宅(ホテル)

から駅までのタクシー料金を含んだ運賃であることの補足・訂正を（場違いではあるが）、
ここで行っておく。

最後に、我が国が少子化時代を迎え、大学間競争も先の航空業界と同じく厳しさを増している中、研究への財政的支えを長期にわたり保障して頂いている、追手門学院大学当局に感謝するものである。

*本紀要（36号）の校正過程に入った2011年1月前半、クイーンズランド州からの豪雨が伝えられ、とりわけ Toowoomba であった陸の Tsunami とも評された洪水は人類史というより地球史に残るような現象であり、甚大な被害を齎した。州都ブリスベンはいうまでもなく郊外の Ipswich を含め Toowoomba にある各大学（クイーンズランド、南クイーンズランド、グリフィス）の関係者のみならずクイーンズランドに住まわれている方全員にお見舞い、また亡くなられた方にお悔やみ申し上げる、とともに一日も早い州全体の復興を願うものである。このことを同州研究者の責務として加えておきたい。

**It was in the first half of January 2011, in the middle of proofreading this paper for *The Otemon Journal of Australian Studies* vol. 36, that the news about the terrible heavy rain in Queensland was reported here in Japan. Especially, the flood in Toowoomba called 'Tsunami on land', which caused the extensive damage, can be recorded as a most remarkable phenomenon in global history rather than in human history. I would like to take this opportunity to express my sincere sympathy for all the Queenslanders and all the people concerned in the Universities in the State of Queensland not only in Brisbane but also in Ipswich and Toowoomba, such as the University of Queensland, the University of Southern Queensland and Griffith University, as well as my deepest condolences for the dead and missing in the flood. And also, I hope that the whole State will recover from the disaster as soon as possible, as a devoted student of the tourist industry of Queensland.